



＼経済産業省「未来の教室」実証事業やEdTech導入補助金の好事例を配信するニュースレター／

未来の教室 通信

Standard

Vol. 07

GIGAスクール環境を活かして先生と生徒達がEdTechを使って創る、「新しい学び方」のモデルをお届け！

Vol. 07

世 界と繋がる！1人1台端末を使って探究的な学びをデザイン

岩手県立
大槌高等学校

英語を学ぶ意義を見出し、 新たな価値観と出会った生徒たち

ネイティブスピーカーと話せる「DMM英会話」を活用

—「伝わる楽しさ」と「伝わらない悔しさ」を知る

「私自身、英語力を伸ばすためにオンライン英会話ツールを以前から活用していました。地方では外国人と話す機会が限られますが、英語力向上にはネイティブスピーカーとの会話が不可欠。学校の授業でも、そうした機会を増やせればと考えていました」

岩手県立大槌高等学校の英語科・鈴木紗季教諭は、EdTech導入補助金を用いて「DMM英会話」を導入した思いをそう話します。英語は本来、知識を増やして人生を豊かにするためのツールとして学ぶもの。しかし現実の学校の英語教育では、試験で高得点を取るための勉強ばかりが重視されている側面もあります。

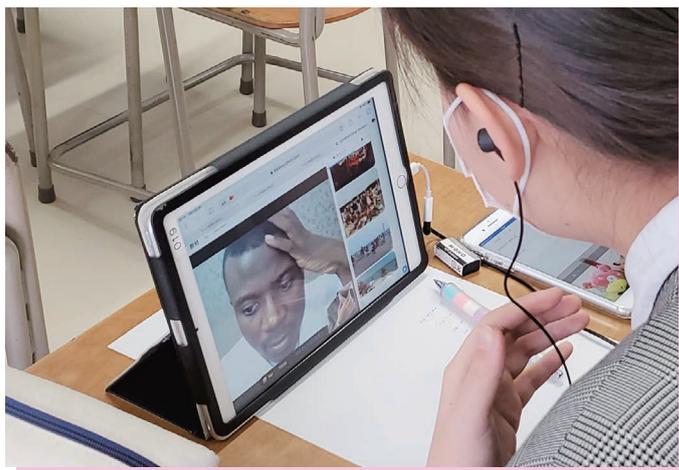
「生徒には、自分の英語が『伝わる楽しさ』と『伝わらない悔しさ』を同時に感じてもらいたいと思っています。ネイティブスピーカーと話す機会を増やすことは大きなチャレンジなのですが、これをきっかけに英語を学ぶことのイメージが変われば」と（鈴木教諭）

DMM英会話では、多国籍の講師とオンラインで会話できます。鈴木教諭はこの機能を活用し、生徒それぞれの興味に基づいてネイティブスピーカーとディスカッションする「フリーカンパセーション（自由会話）方式」の授業を実践しています。

—英会話のために使えるものは、何でも使っている

鈴木教諭が受け持つクラスでは、従来、英語が好きな生徒は少数で、苦手としている生徒のほうが多かったといいます。それでも鈴木教諭は生徒の中にある「英語を話せたらカッコいい」「字幕なしで映画を見てみたい」「外国へ行ってみたい」という思いを感じていました。

「苦手意識の根っこにあるのは長文を読むことや書くことでした。ネイティブスピーカーとの会話では、自分が知っている範囲の単語で伝わることもあるし、相手も寄り添って



DMM英会話を使って、海外の講師と話す生徒

理解しようとしてくれます。結果的に、これまでの授業スタイルでは英語を苦手としていた生徒ほど、DMM英会話でたくさん予約を取るようになりました」（鈴木教諭）

大切なのは、まず英語に親しむこと。その思いから授業では「使えるものは何でも使っている」という方針を取っています。パソコンでDMM英会話を立ち上げながら、自身のスマートフォンで自動翻訳アプリをフル活用して会話する生徒も。また、とにかく相手が言いたいことを掴めるように、リスニングが難しいときはチャットを駆使することも許容しています。生徒はまさに「伝わらない悔しさ」と格闘しながら英会話を楽しんでいるのです。

—「多様な他者」との出会いで価値観が変容

鈴木教諭はDMM英会話を使った探究も展開しています。ディベートの授業では、新型コロナウイルスの影響で登校できない期間を経験したことを踏まえ、「論題：学校の授業は全て自宅オンライン授業にするべきだ」の是非について議論。フィリピンやガーナ、ジンバブエなど、DMM英会話に登録するさまざまな国籍の講師に実情をヒアリングしました。

「英語といえばアメリカかイギリスと思いつている生徒にとって、フィリピンやガーナの方とも英語でやり取りした経験は新鮮なようです。また、多国籍の講師にヒアリングするため、会話した内容をグループで共有するときは、大いに



英会話の際は、電子辞書やスマートフォンを活用

盛り上がりました。DMM英会話は、生徒が多様な世界に触れ視野を広げることにも役立っています」(鈴木教諭)

こうした実践的なコミュニケーションの中で、生徒は英語の表現についても深く考えるようになっていったといいます。「会話で沈黙が続いたときにはこんなフレーズが使えるよ」「話題がそれてしまったら、こんなフレーズを使うといいよ」といったように、授業で鈴木教諭が教える英語もより実践的な内容となっていました。また、生徒からも「『通じる』のレベルを上げるためには、座学での文法や語彙も重要」と、基礎的な内容の意義に気付くような感想が出てきていると言います。

「必要なときに必要なことを教えるのが最も効果的なのだ」と、改めて感じました。一気に詰め込むように教えていた従来の授業と比べて、生徒の飲み込みはかなり早くなったと思います」(鈴木教諭)

ネイティブスピーカーとの会話からは、「日本では当たり前だと考えられていることも世界では違う」という発見が生まれています。そうした疑問が世界史や国語など他教科の学びへの興味につながっていくこともあります。

「生徒の価値観が変容する瞬間を大切に、今後はSDGsにも紐付けて授業のバリエーションを増やしていきたいと考えています。英語を通じて多様な他者と出会い、生徒がワクワクしている姿を見るのは、教員にとっても嬉しいことであり、知っている者と知らない者ではなく、フラットに

議論できることが楽しいです」(鈴木教諭)

一生徒それぞれが「英語を学ぶ意義」を見出す

新たな形で行われた英語の授業を通して、生徒の進路観にも変化が見られています。「卒業後はツアーコンダクターになりたい」と考えていたある生徒は、英語を学ぶ重要性を認識して、自宅でもDMM英会話を活用して積極的に学ぶようになりました。大学進学を予定している生徒からは「探究の授業で国際的視野を持つことの大切さを学べた」という声も上がっています。

「生徒それぞれが英語を学ぶ意義を見出しつつあり、私にとっては本当にうれしい変化です。ただ、今まで英語に興味を持たなかった生徒がのめり込んでいるのを見ると、これからの教師の役割とは何だろうとも考え始めています。これまでの授業では、全員に同じゴールを提示していました。しかし、生徒それぞれで興味や関心は異なりますし、現代ではますます価値観が多様化しています。これからの教師は、オンライン英会話ツールを前提に探究的な学びを組み立てるなど、ICTの活用と授業のデザインを上手く組み合わせることが必要なのかもしれない」(鈴木教諭)



英会話で学んだことを生徒同士で共有

記事で紹介した EdTech の詳細はこちら



事業者名：合同会社DMM.com

公式サイト：<https://eikaiwa.dmm.com/school/>

1人1台端末と様々なEdTechを活用した新しい学び方はこちら



EdTech
ライブラリー



学校 BPR
学校における働き方改革



未来の教室 通信



未来の教室ってなに？ 経済産業省の有識者会議「『未来の教室』とEdTech研究会」では、新しい学習指導要領にもとづき2020年代に実現したい「今を前提にしない学びの姿」を、「未来の教室ビジョン」にまとめました。その議論の内容は、ウェブサイト「『未来の教室』の目指す姿」をご覧ください。



「未来の教室」通信

発行：経済産業省 商務・サービスグループサービス政策課 教育産業室 Tel: 03-3580-3922

Facebook: <https://www.facebook.com/METI.learninginnovation/>

公式サイト: <https://www.learning-innovation.go.jp/>

未来の教室 検索

記事の
定期配信は
こちら



授業での活用例

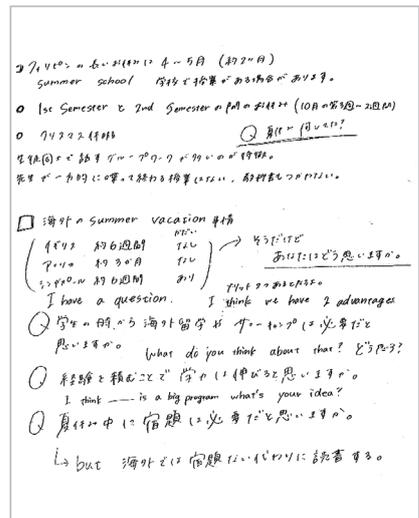
01 デイバート

外国人講師と各テーマについて実践的なやり取りをし、

（高校3年）（コミュニケーション英語Ⅱ） デイバート原稿を作成。その後、ミニデイバートを実施

- 1回目 「日本の高校生も夏休みを2カ月にするべきだ」
- 2回目 「学校の授業は全て自宅オンライン授業にするべきだ」

授業の流れ	①	4 hours	テーマについて外国人講師にadvantages (有利な点) とdisadvantages (不利な点) をヒアリング
	②	3 hours	内容を整理し、立論に必要なpresent situation (現状) /effect (影響・効果) /importance (重要性) などを追加でヒアリング
	③	4 hours	affirmative (肯定) 側とnegative (否定) 側から立論を作成し、外国人講師との対話を通してブラッシュアップ 可能な生徒は、自分の立論について外国人講師から反論をもらう
	④	2 hours	デイバート原稿を作成・推敲



02 英字新聞作成

生徒一人一人の興味・関心のあるテーマについて、外国人講師への

（高校2年）（英語表現Ⅱ） ヒアリングなどを通して英字新聞（6記事分）を作成

授業の流れ	①	6 hours	興味・関心のあるテーマを3つ選択し、2カ国の外国人講師にヒアリング テーマ例 イベント、食べ物、観光地、スポーツなど
	②	3 hours	内容を整理し、不明点をさらに詳しくヒアリング イメージがつかないもの（現地の食べ物やイベントなど）はチャットを活用。写真のやりとりなどで、わかるまで会話を続ける
	③	4 hours	5W2Hの要素を大事にし、英字新聞（6記事分）を作成



先生の気づき

従来の授業では、効果的に実践できなかった下記の点が、EdTechの活用により可能になった

1. 学びの個別最適化

- 外国人講師から即時の肯定的なフィードバックがあり、個々の興味・関心に応じて学べる

2. 実社会との接続

- 実社会で起こりうるレスポンス（反応）が返ってくる
- 多様性や多様な価値観に触れることで、その後の議論でworld wideな視点を持つことができる

3. 家庭学習との接続

- 家庭でもDMM英会話を利用して、予習復習を含めた準備に主体的に取り組むことができる



生徒の感想

- 翻訳ツールも使用することで、自分の言いたいことが言えて伝わってうれしかった
- チャットを活用してくれると、音や文字などで確認できて理解が深まる
- 強制的に英語の環境になるので、日本語を使えないところがいい
- 1対1なので、しっかりと発音とかも教えてもらえてよかった。わからない部分はチャットに書いてくれて、会話が続けてうれしかった
- 実践的に学ぶことができ、「学んでる感」がある
- コミュニケーション英語という授業の意義が生まれた

